

一般社団法人 全麵協

2024.1.30

ニュースフラッシュ 第35号



ニュースで伝える全麵協の今

発行:全麵協ニュースフラッシュ編集グループ
編集責任者:専務理事 赤羽 章司

中谷信一理事長 年頭のご挨拶



謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

会員皆様には、新春を清々しい気持ちでお迎えのことと、お慶び申し上げます。

年明け元日の午後4時10分に、震度7・マグニチュード7.6

の能登半島巨大地震が起り、想像を絶する大規模災害が発生し、多くの尊い人命が奪われました。

被災者の皆様には心からお見舞い申し上げ、1日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

さて、昨年は、設立30年の記念すべき節目の年でありました。例年にも増して、皆様には多くのお力添えをいただき、大きな成果を収めることができましたことを厚くお礼を申し上げます。このことを更なる発展の力として、「そば道」の基本理念、憲章を指針として、会員皆様のご支援、ご協力をいただき邁進する所存であります。

これまで紆余曲折を克服して発展できたのは、会員皆様をはじめ、有段者の皆様並びに関係団体の温かいご支援とご指導の御蔭であります。

昨年、5月27日(土)～28日(日)富山県富山市国際会議場におきまして、「一般社団法人全麵協設立30周年記念式典並びに第3回一般公開そば大学in富山(兼四段位・五段位認定講習会)」を開催いたしました。全国から500名を超える会員皆様方が集い、さらには一般市民も多数来場され、厳粛かつ盛大な式典等を挙行することができました。来賓としては、スロヴェニア共和国大使、韓国李孝石文学宣揚会代表、富山県副知事をはじめ、多数のご臨席を賜りました。

また、11月8日には、東京都立産業貿易センター浜松町館において、「第1回全麵協そば道五段位全国大会in東京」を開催いたしました。当日は全国から78名の五段位認定者が集い、更には一般市民の皆様も多数来場いただき、盛大に記念事業として執り行うことができました。出場者並びに後援、協賛、出展及び広告掲載を戴いた皆様にお礼申し上げます。

今年には昇竜年で、全麵協の新たな飛躍の一年と

するために、「そば道の基本理念・憲章」を指針として、引き続き発展に向け努力を重ね、着実に歩みを進めると共に、新たなことにも果敢に挑戦して行くことが、極めて大事であると思います。昨年に続き、今年の5月25日(土)、26日(日)に広島県尾道市に於いて「第4回そば大学in尾道」を開催いたします。

また、「手打ちそば」がなぜ美味しいと云われるのかを、科学的に探究することに着手したいと思っております。さらに、そば道段位認定事業等に関わる、支部の普及活動、知識、実技講座、そば打ち仲間との交流、そばによる地域振興、そば文化国際交流など、一層の充実拡大に努める思いを強く致しております。

終わりに、重ねて能登半島巨大地震で被災されました多くの皆様の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

一般社団法人全麵協会員皆様のご健康、ご多幸をお祈りしますとともに、当法人(全麵協)に引き続きご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。年頭の祝詞といたします。



利賀の張り子玩具「竜乗り童子」

各支部長 年頭のご挨拶

北海道支部長 守田秀生
年明け早々、地震、飛行機事故と大きな災害が続き、被災された皆様の苦しみを思うとお見舞いの言葉も見つかりません。いつ何が起こるかわからない私たちの暮らし、普段の備えがいかに大切か思い知らされました。一日も早い復興を願います。

今年は、北海道支部の結成が決まって20周年を迎えます。段位認定制度を柱とする全麵協の活動を実行するため、北海道の会員団体が支部に結集して、今日まで活動を進めてきました。20年を節目に全麵協の新たな歴史の礎になるため、今年を北海道支部飛躍の一年にしたいと思います。

飛躍のポイントは①若者や女性のニーズに合った活動②美味しいそばの追求③高段位者の活躍の場の創出、の3点と思います。

北海道支部では今年も「そば道北海道大会」を開催し、各地区予選を勝ち抜いた精鋭がそば道の神髄を競い合います。近い将来、「全麵協そば道全国大会」が開催されることを夢見、支部会員一丸で頑張っまいます。

西日本支部長 篠原美文
新年あけましておめでとうございます。
先ずもって、能登半島地震において被災された方々に哀悼の意を表します。

本年もまた、全麵協の皆様と新たな年を迎えられたことを心より感謝いたします。

今年は甲辰（きのえたつ）の年で、勢いよく活気あふれ、上昇に満ち成長していく年と言われています。

全麵協では昨年5月に、富山県において設立30周年記念事業が開催され、11月には、東京都において五段位全国大会が開催される等、輝かしい一年でした。

これもひとえに、全麵協を支えて来られた皆様方のご支援とご愛顧の賜物です。

西日本支部では今年の5月25日から26日に本部主催の尾道そば大学の開講を予定しています。

講演内容も郷土芸能の八岐大蛇（ヤマタノオロチ）をはじめ、基調講演では、日本の食文化に関するテーマやそば打ち技術に関する講演を盛り沢山に企画いたしています。

そば大学終了後の27日には尾道しまなみ海道観光ツアーを開催し、大山祇神社、平山郁夫美術館、西日光耕三寺等を巡るツアーを企画しています。一人でも多くの参加をお願いいたします。

また、令和7年3月22日には、本部主催の全国女流名人大会を兵庫県姫路市に予定しています。

本年が皆様にとりまして幸多きまた、大きく飛躍する年となりますよう御祈念申し上げます。

東日本支部長 芳田時夫
新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染からようやく立ち直り、以前の活動に戻ってきました。

昨年は全麵協30周年記念式典（富山市）や五段位全国大会が開催され、支部として8月に「そば大学in横手」の開催、9月に四段位認定会（宇都宮市）が順調に開催されました。

コロナやインフルエンザなど上手に付き合いながら東日本支部事業を展開していこうと思います。

東日本支部はまだ組織体制が弱いですが、新しい五段位認定者が認定され今後の活動の核として活動が期待できます。支部として認定会、講習会、フェスティバル等の事業を推進して組織拡大に努めてまいりたいと思います。

本年も一層のご協力をいただき、支部事業を盛り上げていきたいのでよろしくお願いいたします。

首都圏支部部長 腰原 弘敏

正会員及び各会員の皆様方、新年明けましておめでとうございます。

昨年は、全麵協30周年記念事業としての事業が全て盛大にまた成功裡に終了することが出来ました。これもひとえに皆様方のご協力の賜物と感謝申し上げます。

コロナも5類に移行され、街にはインバウンド観光客が溢れ賑わいを見せております。新年早々、能登地震や羽田の飛行機事故などから始まり今年一体どうなることやらと感じておりますが、これまでのところ計画された事業計画も様々な工夫を凝らして対応し無事に進行しております。ご対応いただいた皆様方には改めまして深く感謝申し上げます。

今年は千支にちなみ登り龍のごとく新たな飛躍の年として細心の注意を払いながら各種事業に取り組んでまいりたいと考えております。皆様の益々のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

今後明るく楽しい開かれた全麵協、首都圏支部を創り上げていくために、皆様のお知恵とお力を賜りたくよろしくお願いいたします。

そばを広く、深く学び、自分づくり、仲間づくり、地域づくりに活かすことがそば道を歩む私共の使命であり、皆の知恵と力を結集して様々な難局を乗り越えていくべきであることを、全麵協及び首都圏支部正会員が理解し更に飛躍の年になりますように祈っております。

皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

令和5年度 第5回理事会開催報告

令和5年12月17日(日)午後2時から麺業会館2階会議室(東京都)において、第5回理事会が対面で開催されたので、概要をお知らせします。

1 報告

- ①五段位認定会 (10月27日～29日・北海道新得町)
- ②第1回そば道五段位全国大会in東京 (11月8日)
- ③五段位認定者研修会 (12月9～10日平塚市)
- ④そば粉の販売状況
- ⑤予算の執行状況
- ⑥事務局体制について
- ⑦会員の移動等

<全員了承>

2 議題

- ①本部事務を5支部へ事務移管
 - ア 会員年会費の徴収事務について
 - イ 支部ごとに会員及び有段者名簿管理
 - ウ 段位認定審査会に関わる業務の移行
(四段位・五段位に関する業務)
 - エ 会員への郵送事務の一部移行について

支部の業務量が増えるので、支部内の意見を聞いてから再度検討する。継続審議 <全員了承>

- ②本部組織の変更
理事の数、事務組織の体制、理事と事務職員
の兼務の見直しについては、引き続き検討し、
結論を出してゆく。 <全員了承>

- ③全麺協そば道五段位全国大会
来年度は開催しない予定であるが、支部か
らは開催について要望する意見があった。
<全員了承>

- ④令和6年度全麺協指定のそば粉
製粉会社は同じで、令和6年1月から信州産の
そば粉を提供する。賞味期限は、6か月にす
る。推奨そば粉については、1キロ当たり100
円くらい値上がりになる見込み。階上町とは、
1年、2年で終わりにしない。 <全員了承>

- ⑤定款の一部改正
第8条の正会員の区分のうち、新たに公共的
団体正会員を加える。定款は、総会の議決
事項であるので、総会での定款一部改正提案
してゆきたい。 <全員了承>

- ⑥そば道段位認定制度規制の一部改正

そば粉の量を1.5kか1.2kのどちらかに選択で
きる区分に、女性を加えることについては、
いろいろな意見があるので、段位認定部会で
検討をしてからあげてゆく。

・指導員の規定の改正

再度検討する。

<全員了承>

- ⑦今後の日程

ア 令和6年度総会の日程

→令和6年6月16日(日)如水会館

イ 六・七段位の日程

→令和6年3月17日(日)麺業会館

ウ 全国審査員の任用及び更新

→4月1日に更新予定

エ そば大学in尾道

→令和6年5月25日～26日 尾道市

オ 3月理事会日程 未定

3 その他

- ①令和6年度五・四段位の意向調査
支部長、正会員代表の方々を通して調査する。
- ②五・四段位受験申請の電子化について
申請書類は手書きだったが、電子化にしてい
く。
- ③指導員三級任用講習会 支部ごとに開催予定
- ④次年度の事業計画の報告について(各部・各
支部)
 - ・1月22日月曜日までに、各部、各支部から報告
をお願いする。
 - ・次年度の五段位認定会の日程は令和6年の10月
19日、20日の予定。場所は埼玉県。受験者が
増えた場合には、次の週にやる予定。場所は
未定。
 - ・そば大学は、実行委員会を立ち上げる。支援
委員会を作り、各支部長を委員に任命させて
いただき、皆で協力をして開催してゆきたい。

会員だより

北洋大学留学生そば打ち体験

12月11・12日の2日間、市内の私立北洋大
学の学生食堂に於いて留学生を対象としたそば打
ち体験を行いました。駒澤大学から北洋大学に変
わった市内で唯一の大学を応援すると共に、留学
生に「そば」を知ってもらう取り組みを昨年度か
ら始め、今回はネパール、ミャンマー、モンゴル

、香港、中国等の留学生20名の他、市民6名も
参加し会員13名で取り組みました。

最初は緊張気味でしたが、講師の身振り手振り
とアイコンタクトで、言葉の壁を乗り越えながら
水廻し、延しと和やかなうちに進みました。初め
てでも器用に延し棒を使う学生もいて驚かされま

したが、包丁は少し難しかったようです。自分達の打ったそばの試食タイムでは、初めての食感にあちこちのテーブルで「美味しい！」との声も聞こえ、自分で茹でてみると言い持ち帰った自炊の学生もいました。

楽しみながら真剣にそばと取り組む中にも礼儀正

能登半島震災避難所へのそば提供支援

1) 地震発生と震災避難

2024年元旦夕方の能登半島地震は祝日モードを一変させる大災害。私たち富山そば研究会万葉道場が活動する富山県西部地区は震源に近く、特に氷見市は能登半島南部に位置しており大きな被害がありました。そば道場仲間には防災士がおり氷見市で最大の被害地の避難所の担当であることがわかりました。

そこで防災士と相談連携して被災者の皆さんに暖かい手打ちそばを提供することを考えました。

2) 避難所へのそば提供と問題点

現地避難所を確認しましたが大変です。問題点が3件ありました。確認当初そば提供は無理かと思われましたが、以下の対応で解決することになりました。

- ①そば打ち場所がない。→そば道場の練習場で打って少し離れている避難所まで運ぶ。
- ②そば茹で場所が狭い。→避難所入場者通路を狭くして、入口玄関ポーチで茹でる。
- ③断水となっている。→これが最大の問題。打ち水はペットボトル水を使いますが、茹でや洗いが困難です。そこで道場会員に連絡して自家用水タンクを借用、タンク満水にして避難所に運ぶこととしました。（最終的には約600ℓの水を確保出来ました。）

3) そば打ち作業と茹で場所準備

そば提供当日は、道場からの参加者を打ち班と茹で班に分けました。

打ち班5名は、クラブ道場で打ちます。打ったそば7kgは避難所に届けてもらいます。

茹で班7名は避難所で準備。被災者など食べる人の動線やスタッフの作業場所と動線を考えて道具や材料の置き場を決める。狭い場所なのでこれは大変です。思考錯誤を重ねました。準備途中、偶然に林氷見市長の現地激励訪問と遭遇し、市長

しい若者達の素朴さ、純真さに触れ、思い出に残る体験会となりました。

後で希望者は他にもいたと聞き、次年度も是非計画したいと考えています。

（苫小牧手打ちそば愛好会事務局長 岩城 一茂）

から感謝の言葉を受けました。

そんなことをしながら、水や打ったそばも運び込まれ、何とか11時30分からそば提供を開始することが出来ました。

4) 被災者の喜びとそばの力

事前に被災地自治会長と相談し、被災地区全員にそば提供の声掛けをしてもらいました。

結果、当日在住の地区民ほぼ全員に食べてもらいました。加えて支援隊福島県庁職員、防災士、新聞社取材記者等。約90食を食べてもらい、喜んでもらいました。

そばは人の輪と和を大きくする。改めて実感しました。突然の避難所支援活動でしたが自宅の被害を受けながら参加するそば道場スタッフもいました。そば食には多くの作業工程と人手が必要です。上記の方々をはじめ多くの人に協力してもらいました。そば道場に避難所支援の参加要請をしましたが、直ぐに予定数の参加希望者が集まりました。九頭竜工房富山そば道場からも参加していただきました。実施後に活動を聞きつけた別のそば仲間から今後に向けてそば粉の提供を受けました。

などなど、そばでなかったら今回のような人の輪や和は生まれにくかったと思います。そばが持つ力はすごいと改めて感じました。

（富山そば研究会万葉道場長 内 毅）



5月25・26日広島県尾道で、「そば大学in尾道」を開催します。

まもなく皆様にご案内をする予定です。

皆様からの情報提供をお待ちしています。

全麺協ニュースフラッシュ編集グループ

編集責任者 赤羽章司

編集主任 原秀夫

チーム員 山本良明 萩原敏彦 横田節子